

# 津の観光



## ルーブル彫刻美術館

### ◇日本のルーブル

近鉄電車が橿原温泉駅に近づくと、大きな「ミロのビーナス」像が見えてくる。「フランス」の芸術品が、日本、それも三重県の津市に、どうして?と、驚いた人は少なくないはずだ。

これは、1987年に同市白由町に創設された「ルーブル彫刻美術館」の巨大な「看板彫刻」。隣には、「サモトラケの



ニケ」。「自由の女神像」も並んでいる。

### ◇世界で唯一の姉妹館

「何だ、真似をして造っただけか」と思ったら大間違い。同館は、本家の「フランス国立ルーブル美術館」が認めた、世界で唯一の姉妹館なのだ。

「模刻」と「複製」の違いをご存知だろうか。「模刻」は作品を見ながら似せて造るが「複製」は作品から直接型を取って造る。つまり、小さな傷までそのままに出来るため、本物と並べても区別がつかない。作品の価値は「模刻」よりもずっと高い。

同彫刻美術館の作品は、パリ・ルーブル美術館の美術部が、門外不出の実物から造った「複製」。もちろん作品一点一点に証の刻印がある。ミケランジェロの「モーゼ」、ロダンの



「考える人」などの一流の美術品を、津で、それも同近で鑑賞できる。

### ◇ブロンズ製にした理由

館内には1300点が展示されているが、本家と違う点は素材だ。

本家が大理石などで出来ている作品も、同彫刻美術館ではブロンズ製。一人でも多くの人に鑑賞してもらいたいと、目の不自由な人には作品に触れてもらおうと考えた。そこで素材を、風化が少なく、半永久的なブロンズにしたのだという。

◇初代館長・竹川義次郎さんの熱意

同彫刻美術館を創設したのは竹川規清館長(46)の父親である勇次郎さん(故人)だ。今から30年以上前に渡仏した際、勇次郎さんはルーブル美術館を訪れた。その素晴らしい心に心を奪われ、日本の人にもこの感動を味わわせてあげたいと思った。しかし、当時、海外旅行できるのはごく一部の人のみ。ならば、これと同じものを日本で見せられないか? そう考え、彫刻作品の複製の許可を求めて、再度渡仏。初めのうちは、世界的な美術品に傷をつけることになっては大変と、相手にもされなかつたが、次第に熱意が伝わり、17回目に、とうとう許可を得たのだ。

### ◇父の思いを継いで

2代目館長・規清さんは「正直、お客様の少ない冬場は一時的に閉館したいと思うこともある。しかし、多くの人に感動を与えたいと願う父の思いを継いで、年中無休を続けている。来

館者には必ず喜んでもらえると思っている」とほほ笑んだ。

### ◇入館案内

\*開館時間 9時~17時  
(入館は16時半まで)

\*入館料

大人(高校生以上) 1,500円  
60歳以上・学生・身体障がい者 1,000円

小人(3歳以上) 800円

\*前売り券・割引券 HP参照  
\*駐車場 普通車120台

お問い合わせは、電話  
059(262)1111まで。



<http://www.louvre-m.com/>

